



## 『 腹痛の場所と消化器系疾患 』

腹痛のパターンや原因にはいろいろあり、腹部の全ての臓器が関係しているため非常に幅が広いことが特徴です。

今回は、腹痛の場所と比較的よくある消化器系の病気との関係について説明します。

まず、上腹部痛が多い病気には、胃十二指腸潰瘍、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、急性膵炎などがあります。その中で、胆石症、胆嚢炎の主な症状は右上腹部の痛みで、炎症が進むと発熱や黄疸が出現することもあります。急性膵炎はみぞおちや背中での痛みで、食後や飲酒後などに強い痛みを感じます。重症化すると命にかかわることもあるため早期の対処が必要です。

次に下腹部痛が多い病気には、急性虫垂炎、大腸憩室炎、虚血性腸炎、腸閉塞などがあります。虫垂炎以外は炎症や閉塞を起こす部位により痛む場所は様々です。虫垂炎は時間経過とともに痛む場所が変わることがあり、次第に右下腹部へ移動してきます。ただし、必ずしも痛みの場所と各病気がイコールで結ばれるわけではなく、病気によっては違う場所が痛むこともありますので思い込みは危険です。強い痛みがあるときは速やかに病院を受診しましょう。

鹿児島厚生連病院 副院長  
(外科統括部長)  
迫田 雅彦